

滋賀県介護の魅力等発信部会 (令和4年度 第1回)

○日 時 令和4年6月3日(金) 13:00~14:30

○場 所 WEB 会議

○出席委員 山岡委員(部会長)、中村真理委員(副部会長)、後藤委員、東委員、河岸委員、岡戸委員、築地委員、中村勝弘委員

○オブザーバー (株)JR 西日本コミュニケーションズ

○同 席 滋賀県社会福祉協議会谷参事

○議 題

(1) 令和4年度介護のしごと魅力発信事業について

1. 部会長および副部会長の選任について

- ・事務局から山岡委員を部会長に推薦する旨提案し、出席委員全員異議なく山岡委員を部会長に互選
- ・山岡部会長が中村真理委員を副部会長に指名

【山岡部会長】

※委員名簿と議事内容の概要の公開について、昨年度と同様に県のホームページでも掲載することについて確認。異議なし。

2. 議題(1) 令和4年度介護のしごと魅力発信事業について

※資料2、3により事務局およびオブザーバーから説明

【部会長】

○しがけあプロジェクト2年目の提案内容の説明をいただいた。これをベースにして皆さんの意見も取り入れて、ブラッシュアップしていきたい。質問等どうか。

【委員】

○様々に考えていただき、楽しみというのが第一印象。

○マンガやアニメ化は良いと思った。

○昨年度のカメラガールズやビューターは継続しない判断なのか、考えを聞きたい。

○最近、ビゴライブを若者が良く見ていると聞くので、そういうサイトの活用はどうか。

○ラジオ出演によるPR企画でのラジオパーソナリティは、京都出身のお笑い芸人となっているが、滋賀出身の方でできないか。

○県内プロスポーツチームとのコラボはどんどん進めたいと思うし、介護職員とコラボできる対談などどうか。できれば、「しがけあフェスタ」にも参加してもらえたらありがたい。

○将来的には事業を自走化する話もあったので、企業が参入しやすいような要素も取り入れたらどうかと思った。

【オブザーバー】

- ブイチューバーについては第3弾動画も検討したが、それでは見ているファン層が第1弾や第2弾と重複する。企画募集要領に掲げられた目標である「しげあサイト来訪実人数5万人」を達成するには、さらに別の来訪者の獲得が必要と考えている。カメラガールズについては、新たな学生プロジェクトを立ち上げる中で、インスタグラム等を活用した広がりを目指しているため、今回は入っていない。
- ラジオ出演によるPR企画については、KBS 京都ラジオの既存の番組を活用するのが狙いだが、滋賀出身のパーソナリティがあまりいない中、若年層に人気のパーソナリティということを重視した。
- 企業とのコラボについては、次年度以降になると思うが県内プロスポーツチームとコラボして行く中で、その他の企業にも協賛を得るという広がりも想定している。介護職員とのコラボについては、先方に提示して交渉して行きたい。

【委員】

- 県内プロスポーツチームの件についてだが、個人的に2年前まで滋賀県のバスケットボールリーグに所属していて、所属している人に介護職員は結構いるので、結びつきも期待できると思う。また、バスケットボール協会にも協力を依頼できると思う。

【委員】

- 自分の周りにもチーム関係者はいる。

【部会長】

- 委員は、2年目の取組としての方向性等についてどうか。

【委員】

- 具体的な進め方については、プロが考えていただいているので、私のほうから申しあげることはないが、アンケート調査のデータについて、回答者がどの程度全体を代表しているかという観点から、517人の回答者はどのような人たちなのか伺いたい。

【オブザーバー】

- 回答者は、弊社でいつも依頼しているアンケート調査会社所属のモニターのうちの、滋賀県在住の10代から30代の人たちである。なおかつ、結果が偏らないように現任介護職員や介護職経験者を除いた回答数である。

【委員】

- 知らなかった人たちが認知することによって、意識が上がることを確認できたということで、非常に重要な情報だと感じた。
- また、認知というのが何を指すのかも重要。ポスター見たというレベルから実際にストーリーを追って自分事として考える時間があったというレベルまで大分違ってくると思うので、今回そのあたりの設計をしていただいているのだと感じた。単純にポスター見たということだけではなく、できる限りWEBサイトやマンガに誘導することによってストーリーとして受け止めてもらうよう工夫されていると理解している。

【委員】

○しがけあ学生プロジェクトについて、介護を学んでいる学生がプロジェクトメンバーの想定になっているが、ここに他の学部生を動員できると良いのではと思う。学生が学生に問いかける機会であったり、深く入って関わっていただける可能性もあるので、オブザーバーには何か仕掛けを作っていたらいいと思う。

【オブザーバー】

○当方も、色んな大学から色んな学生を巻き込むのがこの企画のゴールと考えているが、1年目の当企画の実行に当たって、まずは軸を作るべきと考えている。また、「しがけあフェスタ」の時期からすると6月から7月までが募集のリミットと考えている。それらを踏まえて、1年目は幅広く募集するよりも特定の学校に相談させていただき、プロジェクトを形にし、それ自体の発信をしていくことで、次年度以降の当企画への参加を促進して行きたい。

【委員】

○現実的なプランという観点からの設計と思うが、他の団体等の協力も得られれば、広がりの可能性も感じているので、県でも検討していただければと思う。

【事務局】

○例えば、龍谷大学の学生が参加するのは、龍谷大学生のスケジュール的にも可能か。

【委員】

○もちろん可能だと思う。ただし、色んなイベントや取組で学生募集しているが、コロナ禍で人と接する機会を失っている学生たちが、このようなイベントへの食いつきを悪くしているのが実感で、保証できないのが正直なところ。

○現代福祉学科で福祉政策を学んでいる学生がいるので、そういった学生たちこそ参加してもらいたいと思う。

○呼びかけは私の方でも協力できるし、あるいは公式ルートからも本学だけでなく他大学にも呼びかけたら良いと思う。

【事務局】

○オブザーバーにおいても、学生を募集するルートやノウハウを持っているわけではないので、募集を取りまとめてくれるような機関はあるか。

【委員】

○福祉職の育成に関する学校が協議会を作っているかと思うが、そこが直接的なところと思う。あるいは、介護や福祉に関心が元々薄いけれども、何か社会に役立ちたいと思っている学生も多数いる。例えば一番大きな網を掛けるとすると、環びわ湖大学・地域コンソーシアムから流してもらう方法もある。あとは各大学のボランティアセンターや学部の教務課にアプローチするのが一般的と思う。

【副部長】

○プロスポーツチームとのコラボやマンガの活用があって良いと思う。また、ティックトックなどは、滋賀にゆかりのある人に参画していただくと良いと思う。

【部長】

○今話が出たが、今回、ティックトックを活用する理由を伺いたい。

【オブザーバー】

- 高校生などの若年層に見られる媒体であるので、各企画のうち1つはそれを活用しようと、設計した。
- 「介護士あるある」を発信している方のフォロワー数が3万8千人であるので、そういう方とコラボして訴求してはどうかという提案である。意見いただいているとおり、滋賀にゆかりのある方を意識したうえで、代案を練っているところ。

【委員】

- プロスポーツチームについては、ケアマネジャーの中にも大ファンがいるので良いと思う。
- 滋賀にゆかりのある人にといいはとても良いと思うが、一方で滋賀の人でないからこそ滋賀の魅力を発信できる人もいると思う。魅力発信においては、住んでいない人の見方や企画が一部入っているのもまたいいんじゃないかと思う。

【委員】

- 今回も若者に当てていくということなので、楽しみながら進めて行けることが大事と思う。
- 学生プロジェクトのメンバーになられた方が、どういう切り口で何を訴えていくかわからないが、そういう若い方々の発想で展開していくことが今年度のテーマにもなると思う。
- 広告の展開としては、県内の高校や大学に訪問して、校内に拡散していただける方と出会う方法もあると思うし、ポスター広告なら瀬田駅から龍谷大学に行くバスでの広告など、大学を絞った広告という方法もあると思う。

【委員】

- 昨年度の「しがけあフェスタ」では各団体のブースは、参加できない状況もあったので結果的になかなか良い形にならなかったところもあった。前回の会議で、全員で盛り上げようということで、団体の垣根を外して実施しようと言っていたと思う。昨年と同様に実行委員をつくれると思うので、是非早めに進めていけたらと思う。
- 委員も触れられていたが、最終的に自走して行くことをイメージした時に、オブザーバーに乗っかっている感が強いので、私たちが自ら入っていく部分をつくらないといけないと思う。理想的なことを言っているのかもしれないが、大事なことも思っている。また、企業の方たちにこのプロジェクトを運営してもらえるような仕組みは、どうやって作って行ったらいいのかはなかなか見えないが、大事と思う。

【部長】

○プロスポーツチームとのコラボ企画では、協賛ゲームも想定されているようだが、そのあた

りどうか。

【オブザーバー】

○協賛ゲームは、プロスポーツチームに協賛されている企業にもアプローチして行くということである。その際にネットワーク拡大を意識して行きながら取り組んで行きたい。

【委員】

○「しがけあフェスタ」におけるブースとステージの繋がりについて、ブースの様子をステージで見ることができる仕掛けがあると良いと思う。

【部会長】

○今日の意見等はまたオブザーバーのほうで、踏まえてブラッシュアップされるのか。

【オブザーバー】

○プロスポーツチームのコラボについては、先方との交渉とその内容に伴う経費も考えながら調整して行きたい。

【部会長】

○企画提案書の見積りの内訳は、共有することは可能か。

【事務局】

○企画提案の見積りの詳細は、各企業固有の技術やノウハウ、アイデアなどに関わる情報が含まれているので、情報公開請求の手続きをされる場合は別として、一般公表はしていない。

【副部会長】

○ティックトックについて、知名度と配信回数とのバランスは分からないが、3本の動画でどれくらいの効果があるのか伺いたい。本数を多くお願いできる人の方が良いのではと思うが。

【オブザーバー】

○今回の候補はフォロワー数が3万8千人であり、介護をテーマにティックトックで配信している人の中で同様の人はいないということで選定した。フォロワー数が多い人の方が効率的と考えているためであるが、配信本数もちろん重要であるので、それも含めて代案を検討して行きたい。

【部会長】

○「しがけあフェスタ」のゲストの選定理由も伺いたい。

【オブザーバー】

○今回も KBS と連携して行く中で、KBS のパーソナリティで著名な方を選定した。昨年度のよう

に他からゲストを呼ぶこともできるが、外注の経費をステージに振り分けるのではなく、スタンプラリーやイベントコンテンツに振り分けた。

【事務局】

- 「しがけあフェスタ」における委託業務の範囲については、昨年度と同様に会場手配や会場の環境整備、公開生放送、学生プロジェクトは委託で行い、ステージやブース等の業界側での催しは自己負担でお願いします。
- 「データで見るしがけあ」について、前回の会議でも業界内の盛り上がりが必要だという意見があったことを思うと、この企画でのアンケート回答数は、業界内での盛り上がりや関わろうとする意識の度合いを計測する機会でもあると捉えることができるので、是非たくさんのお返事をいただきたい。

【委員】

- ラジオの活用について、今の学生たちはラジオというメディアに対する関心が高い。スマホでラジオを聴けるようになったこともあり、若者に浸透してきている。ラジオの聴取率は今も高くはないが、若者たちはラジオ番組を作るということに関心を持っていて、ラジオ番組作りませんかと募集すると学生が集まる。
- それを考えると、「しがけあ学生プロジェクト」で、ケアについて考えませんかではなく、ラジオ番組作りませんかという募集のしかたをすると、食いつきが違おうだろうと思う。ラジオ番組を作るということは、現場に取材に行って、自ずとケアに触れることになる。フックにラジオを使い、現場で介護や福祉の知見と体験を得てもらって、将来の人材のリソースになってもらう。

【同席者】

- 先日、偶然見た児童生徒向けのテレビ番組で、職業の話をされていた。その中で介護の仕事は本当に重労働で大変なんだと話されていて、こうしたところで刷り込まれるのだとがっかりした。
- 実際に学生がどのようなイメージを持っているかわからないが、そうした中でこのイベントなどは楽しいものであってほしい。提案説明にもあったように、介護に関心のない人にも介護は面白いかもしれないと思ってもらえるような機会になってほしいと思う。
- また、こうした場で皆さんが意見を出して検討されていてすごいと思いながら聞いていた。私の周りには若者層がいなくて、どういう仕掛け、発信、工夫によって若者に伝わるのかわからないので、学生たちに入っていただくプロジェクトは、リアルに発信できるものになると思う。

以上